PICK UP！在宅医療機関　016

ヴィラ・コモンズ訪問看護ステーション

佐藤克弘

代表

011-694-3776

true-sapporo.sakura.ne.jp

北海道札幌市手稲区曙1条1丁目10-1

ビジョン

関節ファシリテーションの治療技術により今まで改善出来なかった痛み、関節拘縮、筋力低下症状を改善し起立・歩行動作を改善する事で家庭での療養生活を援助して行きたい

注目の在宅医療機関へのインタビュー取材「PICK UP！在宅医療機関」の第16回目は札幌市手稲区にて「ヴィラ・コモンズ訪問看護ステーション」を運営されている理学療法士佐藤克弘代表です。これまでの歩み、訪問看護・訪問リハビリテーションの現状やこれからに向ける思いを熱く語っていただきました。（2025年2月取材）

兄の姿を見て鍼灸師の道へ

鍼灸師を目指された経緯と針鍼灸師の学校時代の話をお聞かせください。

学生の頃、仲間たちと（右端が私）

私の実家はもともと北海道当別町というところで代々農家を営んでいました。両親は畑仕事が重労働で、よく私に「背中を押してくれ」や「腰を押してくれ」と体の不調を訴えていたんです。幼い頃から、たまに両親のマッサージをしていたのが原体験としてあります。

鍼灸師を目指す直接のきっかけは、兄の存在でした。兄が小児麻痺を患っており、家を継ぐことが難しかったのです。それで、高校卒業後の進路を考えた時に、親から「鍼灸師なら手に職をつけられるし、開業もできるからいいんじゃないか」と勧められ、先に鍼灸師になっていた兄の姿を見ていたので決心しました。当時は減反政策で農業の将来性も厳しくなってきていた時期でしたから、家を継ぐことを諦め、鍼灸師の道に進むことにしました。

鍼灸師の学校は夜間だったので、昼間は兄の治療院で手伝いをしながら、学校に通っていました。1年ほど経った頃、学校の先輩に札幌慈啓会病院でリハビリの助手をしないかと誘われたんです。実は、その先輩も夜間は学校に通っていて、昼間は札幌慈啓会病院で理学療法士として働いていました。助手を探していた先輩と、昼間の仕事を探していた私が、たまたまタイミング良く出会ったというわけです。

専門学校時代から、病院で助手をさせていただき、リハビリの現場で、上司の方から様々なことを教えていただきながら、患者さんの移動や訓練のサポートをしていました。

理学療法士としてリハビリテーション科の立上げに邁進

理学療法士を目指したきっかけを教えて下さい。

鍼灸師の免許取得後、病院で助手をしていた時に、理学療法士の先輩から「これからは理学療法士の学校が増えるから、受けてみないか」と勧められました。当時は北海道内に理学療法士の養成校がなく、将来性を感じて挑戦してみようと思いました。

ただ、当時は本州にしか学校がなく、倍率も高かったので、一度職を辞めて予備校に通い、一年間勉強

しました。そして、1979年に高知医療学院に入学し、3年間学びました。理学療法士として働き始めてからは、学問的に知らなかったことを学び、理論に基づいて治療を行うことで、一定の効果を感じることができました。しかし、従来の理学療法は残存能力を利用した社会復帰を目的としていたため、重度の患者さんには限界があると感じていました。

病院勤務時代はどのような仕事をされていましたか？

病院勤務時代、同僚とともに（中央が私）

札幌慈啓会病院、江仁会病院、北都病院、南小樽病院で働きました。基本的にはリハビリ部門の管理者としてスカウトされました。江仁会病院は療養型の病院で、寝たきりの患者さんが多く、病棟でのリハビリが中心でした。北都病院も同様の療養型病院でしたが、整形外来も行っていました。南小樽病院では、医療技術部長として、薬局、レントゲン、リハビリ部門を統括しながら、リハビリテーションの発展に尽力しました。
札幌慈啓会病院で主任を任された頃は、私もまだ若く、周りの鍼灸師や柔道整復師と同じくらいの年齢でした。当時あまりいなかった理学療法士に反発もあったのか、適切にマネジメントできず、人間関係に悩み転職をし江仁会病院に行きました。江仁会病院と北都病院はリハビリテーション科の立ち上げから関わりました。南小樽病院は病院の開業から始まりました。江仁会病院時代の副院長から声がかかりました。副院長とは仲良くさせて頂いていたので直接お電話で依頼があり、お話を受けることにしました。

ご専門である関節ファシリテーション（SJF)について詳しくお聞かせ下さい。

SJF研究会北海道大会での講演

南小樽病院では、患者さんを増やしたいという思いから、様々な治療法を模索していました。そんな時、知り合いの理学療法士から、関節ファシリテーション（以下、SJF）という治療法を紹介されました。本当に衝撃的な出会いでした。宇都宮初夫先生の治療を見学させていただいた時、まるで魔法を見ているようでした。パーキンソン病で動けなかった患者さんが、治療後にはスムーズに動けるようになる。その光景を目の当たりにして、この治療法を学び、広めなければならないと強く感じました。
私はすぐに宇都宮先生を南小樽病院にお招きし、患者さんへの治療と勉強会を開催しました。すると、全ての患者さんの動作が目に見えて改善したんです。これは北海道内に広めなければならないと確信し、私が中心となって年2回のペースで宇都宮先生をお招きし、講習会を開催するようになりました。

地域へ貢献したい、強い思いのもと、独立開業

その後、株式会社トゥルーを設立されます。

南小樽病院に9年ほど勤務する中で、病院の方針が徐々に変化してきたことがきっかけの一つです。それまでSJFに対して寛容だった病院側から、他の治療法にも目を向けるよう言われるようになったんです。私は、SJFを習得し、広めることで集客にも繋がると考えていました。しかし、病院側との考え方の違いが大きくなり、それならば自分の技術で開業し、地域に貢献したいという思いが強くなりました・・・

続きはQRコードからアクセスしご覧ください　→ → →

おうちde医療
在宅医療com株式会社
〒107-0062　東京都港区南青山3-1-36青山丸竹ビル6F
service@zaita9iryou.com